



サガハイマツ通信

Vol.20

(平成30年3月号)

お知らせ

2018年4月から「公的医療保険」の適用が広がり、さらに身近な治療となります

重粒子線治療の医療制度と適応

保険適用

2016年4月～
●骨軟部がん(切除非適応の骨軟部腫瘍)

2018年4月～
●前立腺がん
●頭頸部がん
(口腔・咽喉頭の扁平上皮がんを除く)

先進医療

肺がん、肝臓がん・肝内胆管がん
膵臓がん、直腸がんの骨盤内再発
食道がん、腎臓がん、婦人科腫瘍
転移性腫瘍(肺・肝・リンパ節の少数個転移)

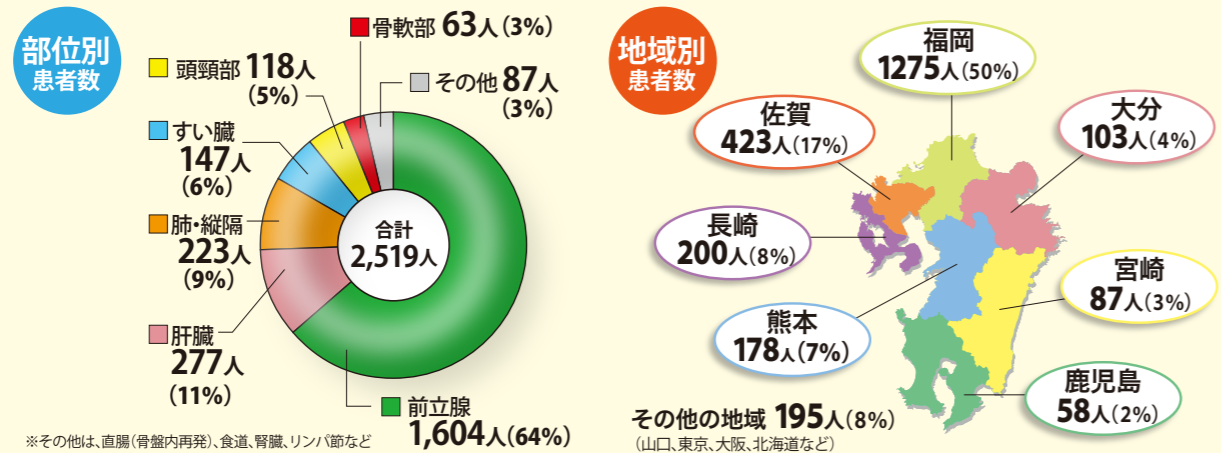
重粒子線がん治療の費用負担のイメージ

●骨軟部腫瘍 ●頭頸部がんの一部 ●前立腺がんの場合

公的医療保険適用 (重粒子線治療)		(診察・検査・薬代など)
●骨軟部・頭頸部 ●前立腺	237万5千円 160万円 (照射回数によらず)	
自己負担※ (3割)	保険給付 (7割)	

※公的医療保険適用の自己負担割合は年齢等によって異なります。
※自己負担分については、**高額療養費制度**が利用可能です。治療が決まれば、事前に「**限度額適用認定証**」を保険者に発行してもらえば自己負担限度額の支払いで済みます。これにより、窓口での支払いは標準所得の家庭では**およそ10万円以下**になります。ぜひ、事前の「限度額適用認定証」の申請をお勧めいたします。
※**民間保険の「放射線治療給付金」**などの対象にもなります。

データで見るサガハイマツ



●寄附をお願いします●

佐賀国際重粒子線がん治療財団では、引き続き皆さんからの寄附を募集しています。県内、ひいては九州のがん医療の充実につながるサガハイマツへのご支援をよろしくお願いします。

なお、当財団へご寄附をいただいた方には、特定公益増進法人に対する寄附として、税制上の優遇措置があります。詳しくは、当財団までお問い合わせください。

サガハイマツ通信 Vol.20

(平成30年3月号)

【お問い合わせ】
発行 公益財団法人 佐賀国際重粒子線がん治療財団 (担当)本村
所在地 〒841-0071 佐賀県鳥栖市原古賀町 3049 番地
TEL 0942(81)1897 FAX 0942(81)1905
HP <https://www.saga-himat.jp/>



福岡市でのフォーラムに500人

- CONTENTS ●塩山善之センター長 インタビュー
●福岡市で重粒子線フォーラム
●お知らせ「公的医療保険の適用拡大」
●データで見るサガハイマツ



サガハイマツは、九州国際重粒子線がん治療センターの愛称です

サガハイマツの受診に関する相談窓口

電話 **0942-50-8812**
(受付時間:平日の9時~12時、13時~17時)
メール saga-himat@saga-himat.jp

重粒子線フォーラムの様子(2月26日、福岡市のJR九州ホール)

九州国際重粒子線がん治療センター(愛称:サガハイマツト)

前立腺がん、頭頸部腫瘍も 公的医療保険適用へ

塩山善之
センター長
インタビュー



【略歴】
しおやま・よしゆき/医学博士。九州国際重粒子線がん治療センター副センター長を経て、2016年4月から同センター長。九州大学医学部を卒業後、同大学の放射線科に入局。高精度放射線治療、粒子線治療などでがん治療に携わってきた。前九州大学大学院医学研究院・重粒子線がん治療学講座教授。

サガハイマツトは治療開始から、4年半がたちました。患者数は2月末現在で2519人。一昨年4月の骨軟部腫瘍の一部に加え、4月から新たに前立腺がんや頭頸部腫瘍の一部にも公的医療保険の適用が拡大され、重粒子線治療が選択肢としてさらに広がりを見せそうです。この公的医療保険拡大や、いよいよ始まる第3室での治療について、サガハイマツトの塩山善之センター長に聞きました。

新技術搭載の第3室、 今月から治療開始

▼平成30年度の診療報酬改定に向けて、重粒子線治療の公的医療保険の適用が拡大されると聞いています。

今回の診療報酬改定で4月からは前立腺がんや頭頸部腫瘍の一部に公的医療保険が適用されることとなります。重粒子線治療の先進医療での治療費は314万円ですので、この治療費を保障する先進

医療特約付きの民間保険に加入していれば、治療を選択しやすいと言えます。

そのような中、今回の保険適用拡大によって、より多くの方が重粒子線治療を選択しやすくなります。例えば、前立腺がんの場合、治療費は160万円です。患者さんの負担はその3割までということになります。さらに高額療養費制度を利用すれば、平均的な年収の方なら10万円前後で治療を受けることができるようになります。

サガハイマツトを受診する約7割の方が前立腺

と頭頸部、骨軟部の患者さんです。多くの方に公的医療保険が適用されることになり、サガハイマツトとしても、重粒子線治療の実績が認められたことをうれしく思います。

▼保険適用部位が拡大することで、重粒子線治療を希望する患者さんの増加が予想されます。

現在、二つの治療室で治療を行っていますが、より多くの患者さんに対応できるよう、新しくスキャンニング照射を行う第3室での治療も3月から始まりました。あわせて、より多くの患者さんに治療を提供できるよう医療スタッフも増員して対応しています。今後も、患者さんの増加に合わせ、さらなる増員も検討していきます。

▼スキャンニング照射とはどのような技術ですか。

簡単に言うと、一筆書きの要領でがん病巣をなぞるようにビームを照射する技術のことです。従来の照射法と異なり、患者さんのがん病巣の形に形成する補助器具を製作しなくてよいので、これまで2週間ほどかかっていた照射治療までの準備

期間が1週間程度で済み、より早く治療を開始できます。

一方、呼吸によって動く部位等には、従来の照射法が向いています。そのため、サガハイマツトでは患者さんの病態を見ながら、よりよい治療を提供できるようになります。

▼サガハイマツトの今後の展望をお聞かせください。

2年前、一部ではありますが重粒子線治療への公的医療保険の適用が初めて認められ、この4月からは、さらに適用部位が拡大されて、ますます重粒子線治療の有効性や安全性が評価されたことは喜ばしいことです。がんの治療にはさまざまな方法がありますが、重粒子線治療を選択肢の一つとして考えてもらえるよい機会だと思います。

今後は国内の他の重粒子線治療施設との連携をさらに深めて治療データを共有し、より多くの患者さんに安心して安全な治療を提供していきたいと思っています。

福岡市でのフォーラムに500人

2月26日「重粒子線フォーラム」開催



重粒子線がん治療について理解を深めてもらう「重粒子線フォーラム」が2月26日、福岡市で開かれました。サガハイマツトの近況報告や基調講演のあと、重粒子線治療経験者で元プロ野球選手の今井雄太郎氏を交えたパネルディスカッションもあり、訪れた約500人は、ユーモアを交えながら話す今井さんの体験談に聞き入っていました。このパネルディスカッションの一部を紹介します。

今井 約3年前、サガハイマツトで前立腺がんの治療を受けました。同時進行で大動脈瘤の治療も行っていました。前立腺がんの治療は、3週間で12回の照射をしましたが、ただ横になっていただけでした。今は年に1回、定期的に受診して経過を見てもらっています。

篠藤 前立腺がんの手術を受ける患者さんの一番の心配は、尿もれだと思います。外科手術では、尿道を切ってつなげるので、一時期おむつが必要になることもあります。ほとんどの人は改善されます。放射線治療もまったく副作用が

ないわけではありませんが、臓器の形態を温存して機能を残すことが特長です。なお、リスク分類に沿ってホルモン治療を併用するかどうか判断することになります。

塩山 前立腺がん以外でいうと、例えば肺がんの場合、年齢が若くて肺機能が正常であれば手術は有効な選択肢ですが、高齢や長年の喫煙習慣などにより、肺機能が弱っている人にも重粒子線治療は選択肢となります。また、2回、3回とがんにかかって手術が困難な人にも有効な選択肢と言えます。

【パネリスト】元プロ野球選手 今井雄太郎さん
サガハイマツトセンター長 塩山善之
サガハイマツト主任医長 篠藤 誠



元プロ野球選手の今井雄太郎さん(左から2人目)の体験談を交えながら重粒子線治療についてパネルディスカッションが行われた